

令和3年度公共交通会議事務局の活動報告について

1 活動内容・背景

平成31年3月に策定した「第2次長久手市地域公共交通網形成計画」の「10. 計画の目標を達成するために行う事業・実施主体」にて、N-バスの評価基準を設定し、評価、改善手法を構築する旨定めている。

2 N-バス評価の流れ

- (1) 路線別で定量的な指標（利用者数等）で評価し、基準（今後検討予定）を超えているか評価



基準を超えている場合は路線を維持し、継続運行する。

- (2) 基準に満たない場合は、定性的な指標（利用満足度等）で再度評価する。



基準を超えている場合は路線を維持し、継続運行する。

- (3) 基準に満たない場合は、市民に周知の上、上記の基準を達成するために、利用促進等を地域で実施し、経過観察期間とする。



一定期間、同じ状況が続いた場合は路線再編等改善策を検討

3 令和3年度検討内容及び、令和4年度検討予定

令和3年度は、定量的な指標候補について、利用者数や沿線人口あたりの利用率等が挙げられた。

令和4年度は、令和3年度で挙げた指標候補を用いて、実際に評価を行い、基準値を下回り、かつ減少傾向となっている路線があるか確認。該当路線について、定性的な指標の候補を挙げる。

候補となった定性指標評価のためのアンケート内容を、令和4年9月実施予定の公共交通市民アンケートに盛り込み実施。

上記の定量的・定性的指標の候補で調査した数値から得た調査結果を踏まえ定量的・定性的指標を決定。

指標を決定するにあたり、人口規模や施設立地などの沿線の特性の違いを踏まえて、利用者・地域のニーズを考慮することも念頭に置き、決定する。

(参考) スケジュール

年度	評価	指標
R 3	<ul style="list-style-type: none">・見直し路線で運行開始後、1年間は利用の定着期間とみなし、R 3の定量評価となりうる数値の把握	定量指標となる候補数値の把握
R 4	<ul style="list-style-type: none">・上期にR 3で把握した定量評価の数値を用いて前年度実績と比較し、パターン4に該当するか確認。パターン4に該当する路線の定性指標の候補を検討・下期に、把握する定性指標の調査を、次期公共交通計画のアンケートと同時に実施・把握した定性指標を踏まえ、定量・定性指標を検討	定性指標の把握 (次期交通計画のアンケートと同時に把握) 定量・定性指標決定
R 5	<ul style="list-style-type: none">・R 3、R 4の定量指標の前年度比を比較し、一次評価を実施。併せて、定性指標の把握を実施・その傾向がパターン4に該当する場合、定量指標の評価結果を周知・公表し、利用促進等を図る。	定量指標での評価 定性指標の把握
R 6	<ul style="list-style-type: none">・該当路線について経過観察をしつつ、定性評価を実施し、定量評価の要因を把握・対応策及び見直しの検討を同時に実施	定性指標による分析
R 7	<ul style="list-style-type: none">・経過観察後も改善がみられない路線について、見直し計画を具体化し、路線再編に向けて本格準備	
R 8	<ul style="list-style-type: none">・見直し計画での運行を開始	